

「学生」だからできること

先輩に聞く 挑戦のススメ

考えてみよう 自分の将来

今から始める 人生設計

ちょっとのぞき見 芸専生

【連載特集】各学類・専門学群を知ろう！

全大会紹介・活動報告

ありのままの自分を 受け入れる

筑波大学卒業生
フォトグラファー

あおやま ゆう き
青山裕企さん

筑波大学の卒業生で、現在は写真家をしている青山裕企さん。学生時代に、日本縦断自転車旅や世界2周旅行に出た。旅の中で自分と向き合い、写真家として挑戦していく決断をしたという。経験や卒業生という視点からのアドバイスを聞いた。

旅で気づくこと

青山さんにとって、旅は自分のコンプレックスと向き合う時間であったという。運動音痴であったからこそ自転車旅に惹かれ、人見知りだからこそ世界2周旅行で知らない土地を訪れた。「コンプレックスをずっと持ち続けた人生だったから、目をそらすと挑みたかった」と青山さんは話す。

大学に入学して間もなくの頃は、環境になじめず、家にこもる日々が続いたという。大学周辺の自分が自分の社会で、逃げ場がなかった。そんな中、出会ったのが自転車旅の本だった。「辛い状況から抜け出したいというもどかしさだけがあった。自分を救ってくれるような気がして、なぜかその本だけが輝いて見えた」と青山さんは話す。

旅をする中で、見ている景色を記録したいと思い、カメラを手にとった。旅を終え、つくばに帰った後もあらゆる場所や人を撮り、写真の魅力にとりつかれていった。その後の世界2周旅行で、改めてカメラが好きだと感じ、写真家になる決断をした。「カメラに出会い、それが自分のやりたいことを教えてくれた。旅を通して目的を見つけることができた」と青山さんは話す。

筑波大生への

メッセージ

「つくばの良さは、東京からの程よい距離感だ」と青山さんは話す。東京には、自分より写真撮るのが上手な人も多い。その中で自信を失い、挫折する場合もあるという。当時、つくばではカメラを持っただけで特別視され、それが個性となった。「つくばでは好きなことをのびのびとできる。刺激を受けた時は、東京にまで足をのばせばいい。この環境を活かしてほしい」と青山さんは話す。

コンプレックスを隠す

若者たち

「ありのままの自分を認めてほしい」と青山さんは話す。今の若い人は、自分のコンプレックスを隠す傾向があるという。象徴的なのが、写真加工し、写りの良いものだけをソーシャルネットワークサービス（SNS）に掲載する行為だ。背景には他人に認められたいという欲求がある。「自分を隠すのではなく、見つめなおす道具として写真を利用してほしい。ありのままを嫌わず、自分の長所を見つけて」

「学生」だからできること

先輩に聞く 挑戦のススメ



今、挑戦していることはありますか。夢中になっていることはありますか。「大学生活の4年間はあっという間だよ」と言われて焦る反面、なんとなく同じ毎日を過ごしてしまっている。そんな人や、やってみたいことはあっても実行に移すきっかけがない人、大学で何か始めたいと考えている新入生へ。先輩たちの経験を聞いて、この春、新たな挑戦をしてみませんか。

（編集人：平田瑞季、宮下寛太、吉田文香）

学長から見る

挑戦

「計算され尽くされた無謀」へ挑戦してほしい」と永田恭介学長は話す。無謀と言われることに、緻密な計算と十分な準備をし、挑戦する。そうすれば、不可能に思えることも達成できるという。

永田学長は学生時代、黒部峡谷の登山に挑戦した。断崖絶壁や多数の川筋がある、難易度の高い登山道だ。周囲からは無謀だと言われたが、9年間かけて準備し、成功した。

当日は悪天候に見舞われ、大きな岩の陰で雨風をしのいだ。不安もあったが、努力を積み重ねてきたからこそできると信じ、耐えられたという。「予想外のことが起こっても、計算と準備をしておけば、対応できる。それが自信になる」

学生に

期待すること

学生たちには、海外へ出てほしいという。「留学でも、放浪でも構わない。重要なのは一人で行くこと」と永田学長は話す。頼る相手がない状況で、自分の力が試され、自分の強みや弱さが見えてくるという。「海外での経験は、自分を知ることにつながる」

就職活動では、自分らしさをしっかり持った学生が求められる傾向にある。在学中に挑戦をして、見つけてほしいという。「周りに無謀だと言われても、必要だと思ったことは、計算をし尽くしてやってみてほしい」



自身の挑戦を語る永田学長

「計算され尽くされた無謀」への挑戦

メモからはじまる 探究心



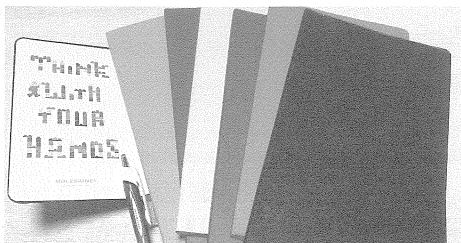
おおくぼまさひと
大久保維人さん

大久保維人さん（工学システム学類3年）は、興味があることをメモする習慣があるという。「次から次へと気になることが出てくる。忘れないようにするためにその場で記録する」

メモの領域は専門分野だけには収まらない。最近、メモをして興味を持ったのがアリの生態だという。巣から仲間の死骸を運ぶ様子から、暗いのになぜ生死の判別ができるのか不思議に思ったという。文献やフィールド調査で理解を深めたが足りず、生物学類の講義を聴講し、直接質問したという。「疑問の答えを探しに大学の講義を利用する。講義は知識の宝庫だ。探究心を満たしてくれる」

大久保さんは、知識を二つに分類している。教科書に載っている体系化された「公知」と、自分の経験則によって得られる「私知」だ。講義で得た「公知」を使い、「私知」を増や

挑戦のきっかけ



お気に入りのノートとペン。記録した疑問をもとに調べていくという。

すがが大学で学ぶ形だという。「公知」であるはずの講義に、自分の知りたいことである「私知」を求めるため、知りたいことと合わないと感じる人もいるのでは」と大久保さんは語る。

現在、自動車販売のアルバイトをしている大久保さん。働くうちに新たな疑問を持ったという。「時期や、天気によって売れる車種が違ふことに疑問を持ち、市場調査に興味湧いた。実際に統計学を用い、傾向を分析した」と話す。

学生であることに誇りを持つ大久保さん。「大学にはあらゆる分野の専門家がいます。興味があったことをすぐに質問できる環境を大事にしている。学生の時間を有意義に使いたい」

東北の良さを 伝えたい

食と酒東北祭り代表

たちかわてつゆき
立川哲之さん



立川哲之さん（生物資源学類4年）は、「食と酒東北祭り（食酒）」を立ち上げ、二年間代表を務めた。「食酒」は、つくばセンター広場で行われる、東北地方の物産を紹介する祭りだ。地元の酒蔵や食品会社が出店する。「祭り」と名付けたのは、祭りならあらゆる年代の人が訪れやすいと考えたためだ。「来場者に東北の良さを知ってもらい、東日本大震災の復興支援につなげたかった」と立川さんは話す。企画の立ち上げや運営は、これまでの人生で一番大きな挑戦だったという。

代表を務めた二年間は、壁にぶつかることもあった。一年目の「食酒」では、自分の理想を上手く言葉にできなかったという。仲間と思いを共有できず、気持ちの差が生じた。自分だけが突っ走ってしまった」と立川さんは話す。反省を生かし、二年目は委員同士で思いを共有することを心がけたという。それぞれが目指す「食酒」の構想を伝え合うよう

挑戦のきっかけ



東北で見た景色。震災から数年が経つが、つめ跡は町の至る所に残るという。

にした。意見を出し合ったものが形になった瞬間は、大きな喜びを感じたという。店の方々からは「一年目よりも成長したね」と言葉をかけてもらった。

「食酒」の成功を通して、達成が困難に思われる夢でも、叶えられると分かったという。非現実的なことや壮大なことでも、胸を張ってできると言えるようになった。「今後は、ミドリムシを研究するベンチャー企業に就職し、世界を変えていきたい。東北に関わる企業の設立にも挑戦し、東北の良さをみんなに伝える夢もある」と立川さんは話す。挑戦の際には、できない理由ではなく、できる可能性を考えるようにしているという。

どん底からの 再スタート

やまむらかずき
山村春樹さん

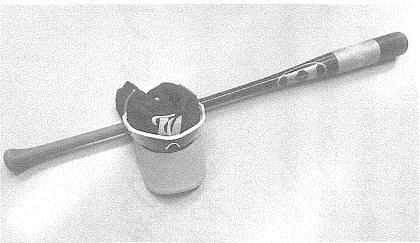


山村春樹さん（体育専門学類4年）の挑戦は、野球部をやめ、選手ではなく指導者として再出発したことだ。大学1年生の5月、体調不良が原因で17年続けた野球から離れた。野球がすべてだった山村さんにとって、競技ができないことは耐えられなかったという。「活躍する同期と自分を比べ、自信を失い自暴自棄になった。部屋にひきこもることもあった」

そんな時、中学生に野球を教えるボランティアを紹介された。コーチとして携わるうちに、教える楽しさに気づいたという。「自分の成功は自分一人のものだが、教え子の成功は、自分と教え子の二人のもの。一つの成功が同時に二つの喜びを生み出す喜びを感じた」と山村さんは話す。指導者としてチームに必要とされ、そこが新たな居場所になったという。

コーチの経験を通じ、誰かの挑戦を手助けしたいと思った山村さん。高校の教師を目指

挑戦のきっかけ



野球帽とサングラス、ノックバット。練習の思い出が詰まっているという。

しているという。そこでの目標が二つある。一つ目は、進路指導がきちんとできる教員になること。野球をやめた際、自分の進路に疑問を感じ、過去に戻りたいと考えた。生徒たちに同じ思いはほしくないという。「自立し、やりたいことに向かって進む力を生徒たちにつける指導がしたい」

二つ目は、高校野球で甲子園に行くことだ。「選手として甲子園に挑めるのは3回だが、指導者として何度も挑戦できる」と山村さんは話す。高校時代の夢を、今度は指導者として叶えたいという。

キャリア教育の専門家に聞く

やりたいことを見つける方法

本特集では、挑戦する人を紹介してきた。読者の中にはやりたいことが見つからない、上手くいかないと悩む学生も多いだろう。悩みを心理学の面から研究する岡田昌毅教授（人間系）に対処法を聞いた。

やりたいことの見つけ方

キャリア発達の分野ではこれから行うことを三つに分けて考える。まず、しなければいけないこと「must」、できること「can」、したいこと「want」の三つだ。wantが見つからない時には、とりあえずmustを行うべきだという。「mustを行っているうちにcanが増える。できることが多くなれば視野が広がり、wantが自然と見つかるはずだ」



悩みの対処法を話す岡田教授

スランプ時の対処方法

スランプ時は、息抜きの期間を設けることが大切だ。「一度、問題から離れることで、悩みを客観的に見つめ直す事ができる」と岡田教授は話す。追い詰められていた気持ちが晴れ、うまくいくことが多いという。

周りの人ができること

自分の悩みのみならず、人の悩みを聞くこともある。悩んでいる人に対して「頑張れ」と声をかけるのは逆効果だという。身体は元気に見えても、心が疲れていることがあるからだ。有効な手段は、相手の話を聞くことだという。原因と一緒に考え、課題を明確にする。「ポイントは、自分の言葉で話してもらうこと。本人が自覚を持てるようになる」

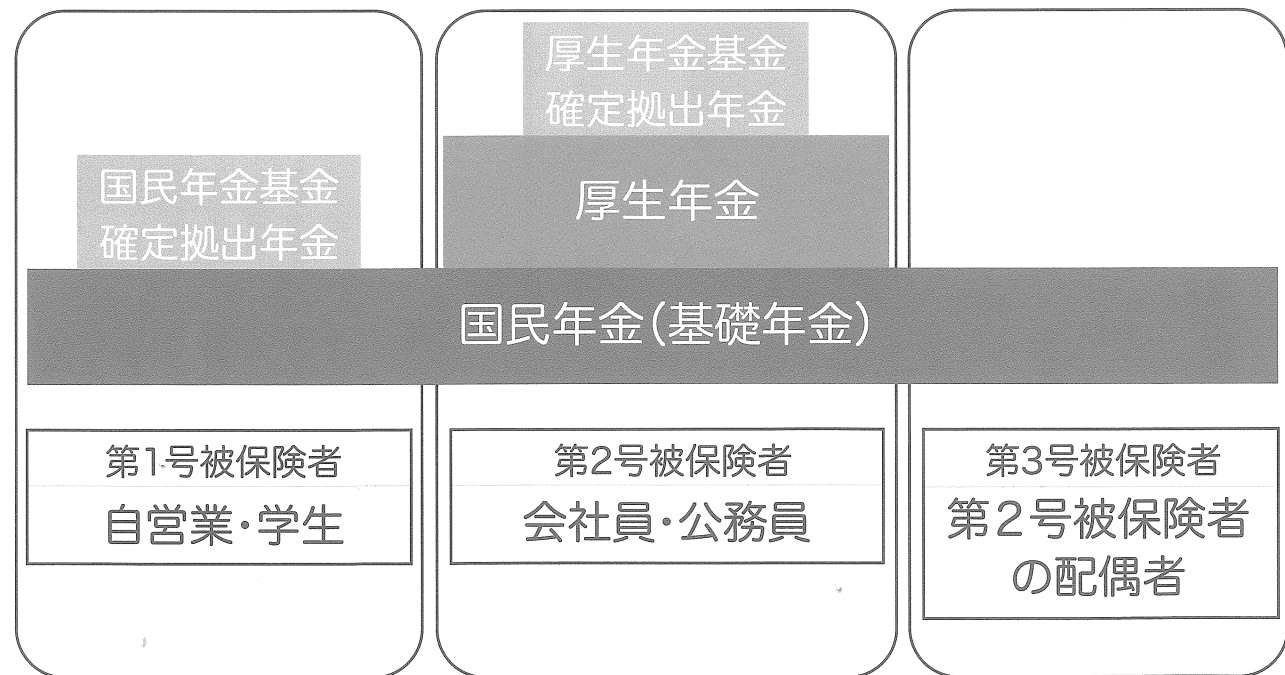
就いた職業が合わず苦しんだ時期がある岡田教授。部署が変わった際、人との関わりが多い仕事がしたいと気付けたという。「無理に探そうと悩むより、やるべきことを着実にやればやりたいことはきっと見つかる。これからは多くの困難があると思うが、めげずに進んでほしい」



年金制度について話す大村助教

老齢年金	国民年金に加入して要件を満たした者が65歳になると受給できる年金。25年以上国民年金に加入し、保険料を納めていることが受給条件である。
障害年金	国民年金に加入している間に初診日のある病気やケガで、法令により定められた障害等級表(1級・2級)に該当する障害の状態になった場合支給される。
遺族年金	被保険者が死亡した際、死亡した者によって生計を維持されていた家族に支給される。

年金の種類



日本の年金制度の体系図

知っておくべき

年金制度

おおむら
大村美保助教(人間系)

日本には、国民の安定した生活を守るため、社会保障制度がある。その一つが年金制度で、老後の所得を保障する目的で作られた。「将来何があるかはわからない。年金制度は、万が一に備えた積み立てだ」と大村美保助教(人間系)は話す。

年金制度の仕組みは、階層的だ。国民年金が基盤となり、厚生年金が上乗せされる。場合により、任意で加入する確定拠出年金、自営業者に向けた国民年金基金、企業が加入する厚生年金基金が上乗せされる。

国民年金は、20歳以上の国民全員が強制的に加入する年金だ。年金の給付には「老齢年金」、「障害年金」、「遺族年金」の三つがある。老齢年金の給付を受けるには、通算で25年、約475万円の保険料を払う必要がある。月に約1万6千円(平成27年度)、一年間で約19万円を納める計算だ。この場合、年間78万円を受給できる。国民年金の納入額と受給額は、景気や物価により変動することもある。

厚生年金は、勤め先を通して加入する年金だ。所得に応じた保険料が、賃金から直接差し引かれる。

保険料の支払いが困難な学生は、学生納付特例制度を利用できる。就学中の保険料が猶予される制度だ。「万が一のときに障害年金を受け取るためにも、国民年金に加入したうえで特例制度を利用することが重要だ。将来、どうしても払えない場合は、免除や追納もあるので、困ったら相談すべきだ」と大村助教は話す。

年金を受け取るには、自分で多くの手続きをする必要がある。例えば、国民年金の加入手続きは、就職していない場合、個人が各自自治体で行う。「年金制度をよく知り、手続きを確実に行うことが大切だ。不明なことがあれば、年金ペディアを参考にしたい」

(年金ペディア：
<http://www.nenkinpedia.jp/>)

考えてみよう 自分の将来

今から始める 人生設計

年金手帳

就職、結婚、出産、退職。これからの人生には様々な節目がある。予期しない状況に直面する場合もある。社会人になる前の最後の段階である大学生生活。自分の将来についてゆっくり考えられる最後の期間かもしれない。これから生きていく上で大切なこと、知っておくべきことを取材した。(編集人:小島七海、宮内優衣)

自分の人生を考える

いがらしひろや
五十嵐浩也教授(芸術系)

人生設計

「人生設計の方法は、研究と同じだ」と五十嵐浩也教授(芸術系)は語る。研究では、テーマを設定したのち、具体的な事象を一般化し、新たな知の発見を目指す。人生設計において「テーマの設定」は「生きる目的の設定」、「事象の一般化」は「目的の抽象化」、「知の発見」は「目的の達成」にあたるという。また、研究を進める際には細かく検証すべき事柄を設定するが、これは目標の設定にあたる。「大学で学ぶのは、人生の目的を見つける方法。研究を通して、身に付けてほしい」

人生設計の秘訣は二つある。一つは、目的と目標をしっかりと区別することだ。目的とは、なりたい自分像のことだ。例えば、「グローバル人材になる」というように、できるだけ抽象的にすべきだという。一方で目標は、その目的を達成するための通過点だ。TOEIC900点を来年の春までに取る」というように、成果が目に見えて分かるものにするべきだという。

学生には、目的に具体的な職業を

進路選択

設定する人も多い。五十嵐教授は、それは誤りだと指摘する。「目的に職業を設定し、それが叶わなかったとする。やり直しがきかないため、味わう必要のない挫折を経験することになる」

もう一つの秘訣は、状況に応じて目標を変更することだ。目標がふさわしくない場合は、より適切なものに修正すべきだという。「目的に近く最短経路を常に考えることが重要だ」

人生設計の第一歩は、抽象的な目的を持つことだという。「目的さえ定まれば、それに向かって自由に生きることができる。在学中に人生の目的を定め、自由へのチケットをつかんでほしい」

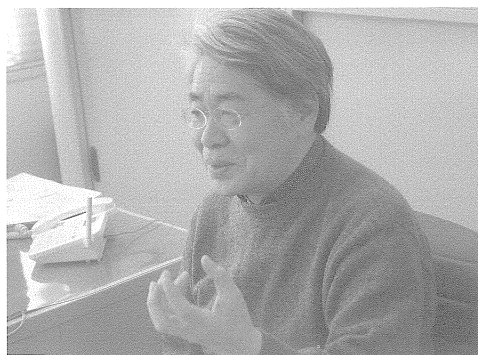
人生の目的を定めたら、次に行うのは目標設定だ。その際、必要となるのが進路だ。進学か就職かで悩む学生は多い。文系と理系で、重視すべき点が異なるという。

理系の学生は、進学すれば専門職に就きやすくなるという。「大学で

は、2年生まで一般教養を学ぶことがほとんどだ。就職活動を考慮すると、専門的な知識を学ぶ期間は実質2年に満たない。大学院で研究することで、知識を深めることができる」

一方、文系や一部の理系の就職では、一般教養が重視される。企業によつては、入社の際に試験を実施している。また、一般教養と並び、英語力も必要とされる。海外進出している企業では、採用時にTOEICの点数を参考にしていることが多い。

進路選択で大切なのは、人生の目的を踏まえていることだという。「ここまで述べてきたことは一般的な違い。進路選択の答えは一つではない。失敗しても、目的に合わせて柔軟に変えていけばいい」



人生設計の大切さについて語る五十嵐教授



力士の彫像

服部真知さん（芸術専門学群15年度卒業生）は彫刻を専攻している。「彫刻の魅力は、立体的なものをありのまま再現できるところ。」

美術専攻 彫塑コース

見たものをそのままに

目で見たものが自分の手で作れるのは素敵なことだ」と服部さんは語る。

卒業制作では、とにかく大きな作品を造りたかったという。粘土を素材にした205センチの力士と、木を素材にした160センチの少女を制作した。木や金属、粘土などの重い素材を扱っていたので、制作をするうちに腕力がついたという。「彫刻の道具は彫刻刀と思われがちだが、実際に使用するのとは大きなのみ。みなさんが思っているよりもパワフルだ」



病院に展示された芸術作品

「相手を支援する立場なら、自分から目的を持って動ける人でないと」と高橋和佳奈さん（芸術専門学群15年度卒業生）は語る。芸

芸術学専攻 芸術支援コース

芸術に対して支援する

術支援コースでは、芸術家や美術館、作品の鑑賞者など、芸術に携わる人々と関連する施設の支援を行う。支援先を想像し、積極的に働きかける必要があるという。

高橋さんは、鑑賞者を対象に芸術支援活動をしている。病院での課外活動では、患者の癒しや励みになればと考え、学生作品を展示する企画を行った。また、芸術に馴染みのない人に興味を持ってほしいという思いから、美術館でクイズラリーを立案したこともあるという。「芸術鑑賞の良さを知ってもらいたい。まずはそのきっかけを」



208号より開始した、学類・専門学群について紹介する連載特集。今回は芸術専門学群（芸専）を取り上げる。専攻は4つの部門と15の専門領域・コースに分かれ、ものづくりやデザイン、芸術史や支援活動など、扱う内容は幅広い。本特集が、芸専について深く知るきっかけとなれば。

（編集人：小松崎麻緒、鈴見祐悟）

50棟2階のラウンジ

芸専生の四年間

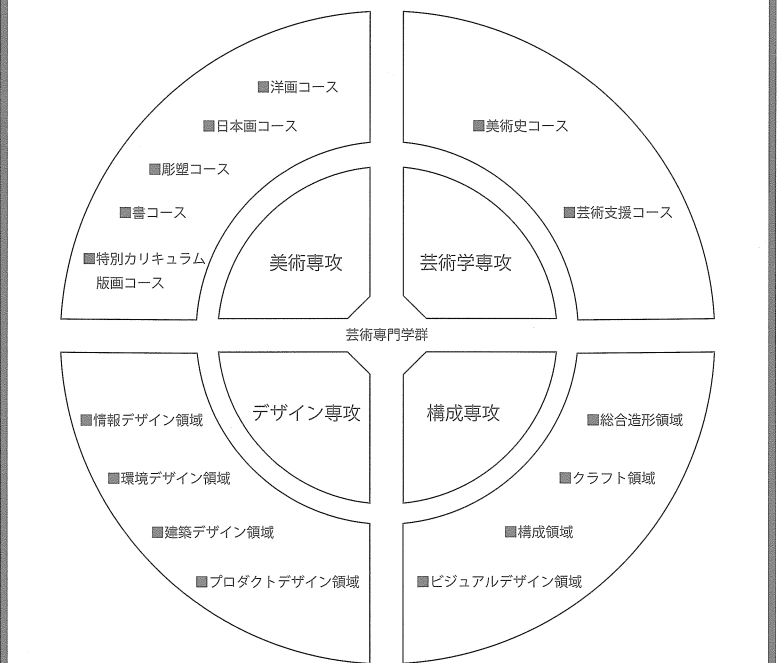
1、2年次では、芸術の基礎を、分野にとわねずに幅広く学ぶ。一つの分野を学ぶだけでは得られない発想力や表現力を習得するための。また、他学類で開設されている講義の受講や学生との交流により、広い視野や基礎学力が身に付くという。

3年次では、4専攻15領域・コースから主専攻を選択する。1学年100人の学生が主専攻に分かれ、専門科目を少人数で学べる。

教員と考えを述べ合うことで、個性を伸ばす指導が受けられるという。

3年間で習得した知識や技術をもとに、4年次では卒業研究を行う。芸専では、卒業制作と論文執筆の両方を卒業要件としている。制作だけでなく、芸術作品の表現に必要な論理性を身に付けるための。作品は毎年2月に開かれる卒業制作展で展示される。また、卒業生は、芸術家や学芸員のほか、広告や製品のデザインに関わる仕事で活躍しているという。

芸術専門学群 専攻（領域・コース）分類表

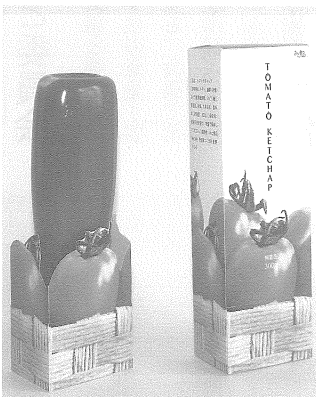


ビジュアルデザイン領域では、グラフィックデザインやイラストなどの表現を学ぶ。広告や商品パッケージの制作もその一つだ。「デ

構成専攻 ビジュアルデザイン領域 商品と消費者を捉える

デザインするときには、商品の特長や消費者の嗜好をとらえ、戦略的に考えるのが大切だ」と倉賀野美都さん（芸術専門学群15年度卒業生）は語る。

倉賀野さんがデザインしたケチャップの外箱は、商品の購入者を主婦と想定している。料理をする女性の目線から、機能性が高くお洒落なものを目指したという。「ケチャップを立てる台として利用できる。見た目は、自然派食品のパッケージのような雰囲気を意識した」



ケチャップのパッケージ

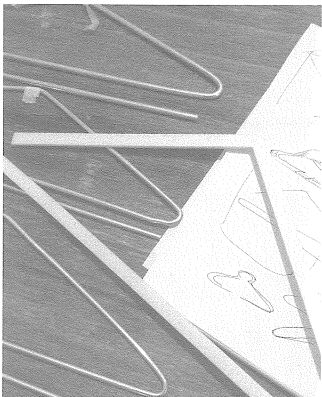
デザイン専攻 情報デザイン領域 利用者の生活を想像する

情報デザイン領域では、工業デザインを学ぶ。商品開発の視点で、電気機器や電子端末、アプリケーションを考案するという。「利



用者の生活に存在する不便さに想像を巡らせる」と石川由佳さん（芸術専門学群15年度卒業生）は話す。

卒業制作では、衣服の自動販売機を提案した。洋服が並ぶ自動販売機を、観光地に設置する企画だ。旅行の際、現地の気候に合った服を選ぶ難しさから、着想を得たという。「煩わしさを解消し、旅先で服を選ぶ楽しみを提供したい。土地の雰囲気に合わせてお洒落が、旅の醍醐味の一つになれば」



構想時のメモと試作品

全代会紹介

筑波大学には、学則で定められた学生組織がある。その一つが、全学学類・専門学群代表者会議（全代会）だ。全代会をはじめとする学生組織は、学生の意向を大学に伝えるために存在する。意向が大学の運営に反映されれば、学生は生活しやすくなるだろう。その仕組みを解説する。

（編集人：小松崎麻緒）

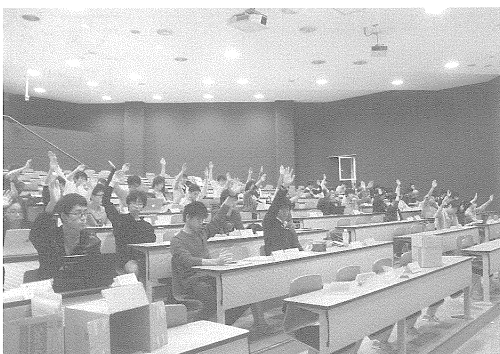
全代会の基礎知識

学生生活を向上 意見反映の仕組み

「冷房がつかない梅雨の時期、教室が暑くて講義に集中できない」「売店の営業時間がもう少し長ければいいのに」。これは一例だが、私たちは学生生活を送る上で、様々な不便を感じることもある。

一人一人が感じている不便を、学生の意見・要望として大学側に伝えるための仕組みが、筑波大学にはある。クラス制度と、それに基づき構成される学生組織だ。

学生組織には三つがある。「クラス会議」は各クラスから、「クラス代表



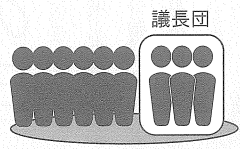
第八回本会議での採決

全代会の活動

会議と委員会

全代会の活動は、会議と委員会の二つだ。会議では、学生の意見・要望を議案として審議する。会議で承認を得た議案は、大学本部に伝えられる。議案の例には、「冬季休業期間終了日変更の要望」「学園祭実行計画書に関する要請」などがある。会議を運営しているのが、議長団であり、全代会を統括する役割もある。

委員会とは、大学を運営する組織と協働し、継続的に活動する。総務、学内行事、教育環境、生活環境、調査、広報の六つがあり、それぞれの分野を専門に扱っている。



全学学類・専門学群代表者会議
(全代会)

全学規模で開かれ、クラ代会から選出された議長団が出席する。

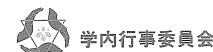


本会議

常任委員会



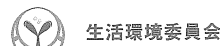
総務委員会



学内行事委員会



教育環境委員会



生活環境委員会



調査委員会



広報委員会

学生組織の仕組み

2015年度の活動報告

総務委員会

- ・教室申請
- ・予算管理
- ・全代会室環境整備
- ・Webページ学生委員会への参加
- ・ZDWikiの管理及び改善への取り組み
- ・総務委員会業務マニュアル化

学内行事委員会

- ・学園祭実施に関わる審議
- ・学生組織連絡会の主催
- ・学生財務会議への出席
- ・学類新歓紫峰会援助金マニュアル改訂
- ・スポーツ・デー運営委員会への出席
- ・課外活動団体リーダー研修会への出席

教育環境委員会

- ・「BRIDGE」他学類・専門学群の授業を受
- けつみち」の作成
- ・英語制度に関する検討
- ・TWINSに関するアンケートの実施
- ・学内の空調設備についての検討
- ・「学生FDサミット2015夏」への参加

生活環境委員会

- ・学生宿舍の環境向上への取り組み
- ・福利厚生委員会への参加
- ・交通安全運動への参加
- ・関東鉄道との話し合いへの出席
- ・ペダストリアンデッキに関するWGへの参加

調査委員会

- ・保健管理センターの利用状況の調査
- ・調査依頼書の作成

広報委員会

- ・全代会の広報誌「Campus」の作成
- ・広報委員会公式「Twitter」の運用
- ・全代会ジャンパーのデザイン及び発注
- ・「Campus」のポップ作成
- ・「はばたけー筑大生」への応募
- ・つくば市学生協働企画への参加

議長団

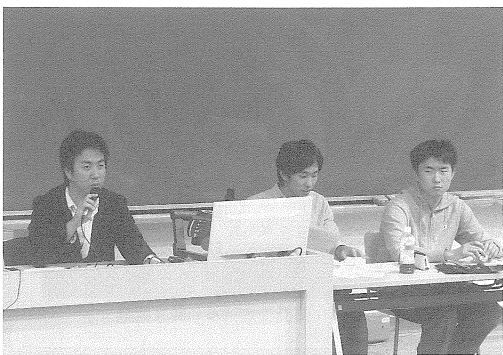
山村春樹議長（体育専門学群4年）は、2015年度から新たに全代会構成委員となり、議長に選出された。副議長は、神尾悠介（人文学類2年）と落合悠太（物理学類3年）が務めた。「神尾副議長は、当時入学したばかり。三人のうち二人が全代会一年目というスタートだった」

全代会に関連する知識が不足していたため困ることも多かったが、良い点もあったという。「先人観にとらわれず、客観的な視点で組織を見ることができた。徐々に問題点が明確になった」

議長団は、全代会の問題点を、学生同士のつながりの薄さと考えた。全代会とクラ代会が連携できていなかったという。情報共有のため、議長団と各クラ代会が参加するメーリングリストを作成し、会議と各クラ代会の内容を報告し合った。

各クラ代会からの報告を受け、新たな問題点が見えたという。学類により、クラ代会の活動頻度に差があることだ。人文学類などが精力的に活動する一方で、クラ代会の開催すらしていない学類もある「

学類間の差を埋めるため、新しい取り組みとして説明責任者を設けた。



会議を進行する議長団。左から山村、落合、神尾

クラ代や座長団を選出する際に、学生組織の役割や仕組みを説明する。「クラ代や座長団が自分の役割を理解しないまま選出され、何もしないという状況を改善できれば」と山村議長は話す。以前から置かれていた選出責任者と役割を統合し、選出・説明責任者講習会を実施した。

議長団は、制度の大きな変更はしていない。問題点にひとつずつ向き合い、改善のための環境を整えた。急な改革ではなく、変わる土台作りをしたという。「2016年度は、『新参者』である自分たちの取り組みが、新しい変化をもたらすはずだ」

全代会 活動報告

12月
2日
副学懇

4日
第一回新歓ネット

16日
第十一回本会議

18日
第二回新歓ネット

1月

21日
第二回

学生組織連絡会
大学本部と教育委
との報告会

27日
第十二回本会議

29日
第三回新歓ネット

2月

3日
選出・説明責任者
講習会

5日
第四回新歓ネット

16日
関東鉄道との
話し合い

17日
ペデW・G
追加意見交換会

副学懇

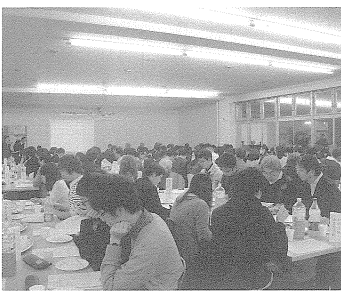
日時…12月2日 19:30
場所…第一エリア食堂
出席…副学長、教職員、
全代会構成員、クラ代議長、他

実施内容

副学長等と全代会構成員との懇談会（副学懇）では、全代会の活動を報告し、提出された議題を話し合う。今回の議題は、「大学運営の透明化について」で、事例が二つ示された。一つ目の事例は、「大学・学生間の情報交換」だ。紫峰会の業務移行など、大学の運営方針に大きな変更がある際、学生への意見聴取が行われなかったことが話された。

事例の二つ目は、「議事録の公開について」だ。現在、大学の運営に関わる会議の議事録は公開されていない。学生へ向けた情報公開は不十分な現状が話された。

開示の方法が話された。
懇談の後、副学長と学生生活支援室長が挨拶を述べた。「情報開示が不十分だ」という学生の不満を見逃さず、対応したい」と玉川信一（副学長（学生担当））は話した。また、「学生の意見を大学運営に取り入れることは大切だ。全代会やクラス代表者会議が十分に機能してほしい」と伊藤真副学長（教育担当）は話した。



多くの教職員と学生が出席した

第十一回本会議

日時…12月16日 18:30
場所…5C216
出席…45

議題

『平成27年度筑波大学園祭
総括報告書承認の報告』

承認…45
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

議題について

学園祭の運営が適切に行われたか監査するため、「総括報告書」を審議した。「総括報告書」には、学園祭で実施した事項が記載されている。また、予算案と実際の決算とを比較した「決算報告書」、来場者を実施したアンケートの結果をまとめた「目的の評価」が含まれている。

第十二回本会議

日時…1月27日 18:30
場所…5C216
出席…38

議題①

『学園祭準備委員会発足の報告』

承認…38
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

議題②

『学園祭実行委員会
委員長・副委員長の任命について』

承認…38
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

議題③

『学園祭学生分担金の額
及び納入方法について』

承認…38
否認…0
保留…0

↓全会一致で可決

議題④

『安全対策推進委員会に関する
申し合わせについて』

承認…28
否認…7
保留…3

↓保留否認

議題①について
学園祭実行委員会（学実委）が行う活動は、当該年度の学園祭に関するものに限定されている。次年度の学園祭に向けた準備を進めるため、「学園祭準備委員会」が発足した。

議題②について
平成28年度学園祭実行委員会の委員長一名と副委員長一名が新たに任命された。事前に行われた質疑応答では、「広い敷地と充実した研究分野を活かし、筑波大学らしさのある学園祭をしたい」と委員長が述べた。

議題③について
学園祭学生分担金は、年度ごとに金額を設定し、学群入学者全員から在籍予定年度分を一括で徴収する。28年度は600円と決定した。新入生は4年間在籍予定の場合、2400円を徴収されることとなる。

議題④について
安全対策推進委員会は、入試および新入生歓迎時期に、学内の安全巡回を指示する組織だ。議案提出の目的は、組織体制を業務の実情に合わせて変更することであったが、内容に不備が多く、保留否認となった。

大学本部と教育委との報告会

日時…1月21日 18:15
場所…本部棟3階第一会議室
出席…伊藤真副学長（教育担当）、
教育推進課・学生生活課職員、
教育環境委員

実施内容

教育環境委員会（教育委）が、学生の意見・要望を大学本部に報告し、意見交換を行った。

報告した主な内容は二つだ。一つ目は、英語制度に関するもの。教育委は昨年度、学群生向けに英語の授業についてアンケート調査を行った。結果をもとに、筑波大学の英語教育に対し学生が感じている問題点を整理した。報告会では、現状の改善を要請した。「担当教員により、授業内容や難易度にはらつきがある」と杉崎真（生物学類4年）は指摘した。

二つ目は、TWINNSに関する内容だ。今年度1、2年生を対象にアンケ-

トを配付し、追加してほしい機能について聞いた。調査でわかった学生に需要のある機能は、「各授業の教室表示」や「卒業進級自己判定機能」だ。また、「amara」と連携できれば便利だ、「必修科目を自動で登録してほしい」といった意見もあった。報告会では、学生の要望をもとに、TWINNSの改善点を提案した。



議論する教育委員

選出・説明責任者講習会

日時…2月3日 18:30
場所…5C216
出席…選出責任者、議長団、他

実施内容

選出・説明責任者とは、次年度の座長団を選出する責任者だ。新入生にクラス制度の仕組みを説明する役割もあり、その研修が行われた。



説明を聞く選出・説明責任者

新歓ネット

新入生歓迎ネットワーク（新歓ネット）では、各学類・専門学群の新歓委員会の委員長が出席し、全学規模で新歓活動の情報交換を行う。主催は全代会の特別委員会である新入生歓迎特別委員会（新特委）だ。

第一回新歓ネット

日時…12月4日 18:30
場所…3A304
出席…各新歓委員長、新特委員

実施内容

各新歓委員長が自己紹介を行った後、実施予定の事項や新特委の役割が話された。

第二回新歓ネット

日時…12月18日 18:30
場所…1B202
出席…各新歓委員長、新特委員

実施内容

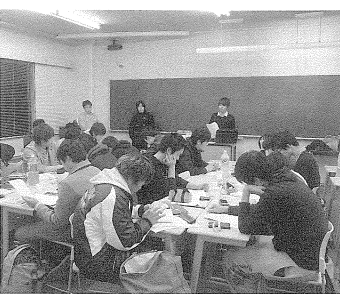
紫峰会援助金について説明があった。各新歓委員会には、紫峰会から援助金が支給される。申請には、会計状況や新歓活動の内容を報告する書類と、全代会の承認が必要だ。申請の手順や方法が案内された。

第三回新歓ネット

日時…1月29日 18:30
場所…3A303
出席…各新歓委員長、新特委員

実施内容

学内学生組織の委員選出と、安全対策推進委員会に関する内容を扱った。学内学生組織とは、学園祭実行委員



説明を受ける新歓委員長

第四回新歓ネット
日時…2月5日 18:30
場所…1C305
出席…各新歓委員長、新特委員
実施内容
宿舎入居日の会場準備について説明された。新入生が学生宿舎に入居する期間、各新歓委員会は支援活動を行う。新特委は、必要に応じて当日の準備を手配する。テナなどの物品について案内があった。

初めての班長。レイアウト、何もかもがわからない。先輩に指示を出す、難しい。制作の大変さと先輩の偉大さを再認識。ただ、自分でやり遂げる達成感は大い。【小島七海】

「先輩」とは何なのか、どうあるべきか。まだ思い倦ね、答えは出ないが、常に見本であろうとするより、後輩たちと共に成長できる頼りない先輩になれたら、と思う日々。【鈴見祐悟】

「大学生でしかできないことがある。勉強と学生生活、大事にして」と父に言われ、ずっと考えていた。今号の挑戦特集には見つけるヒントが詰まっている気がする。【吉田文香】

記事制作者より

Campus

全代会の広報誌
Apr. 2016No.209
2016年4月1日発行

表紙制作者より

初めて一から制作に参加しました。「イメージを形にするには」「この言葉の色ってなんだろう」と試行錯誤する日々。多くの人に見てもらえるよう、努力します。【石田理紗】

初めて自分のデザイン案が採用されました。にやにやしています。ついでに期末テストから解放され、食べて遊んで寝る生活。穏やかな気分です。次回も頑張ります。【鈴木苑子】

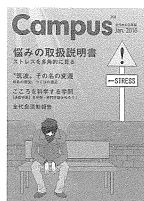
編集後記

占い師になりたい。何が起ころか分らない世の中だ。疑心暗鬼な人々を救う一言「大丈夫。私の確立した占術超理論からすると、あなたはツイてます。」

大学生活に不安を抱く新入生には、ぜひ今号を読んでほしい。私が占術超理論を確立せずとも、先輩たちの珠言が行く先を照らしてくれるはず。評判の占い師なら予言的中するが、新米占い師は見立外れのことだつて言う。新米編集長の迷言は、編集部を困惑させることもあった。

本日のおとめ座は三位。仕事運は星五つ、周囲の助けが得られるというが、今日に限ったことではない。この場を借りて感謝を。【小松崎麻緒】

BACK NUMBER



Campus No.208 2015/01/07

特集：悩みの取扱説明書

「筑波」その名の変遷／ところを科学する学問
全代会活動報告

Campus No.207 2015/10/01

特集：図書館の奥深き活用法

その閃きが実現する？／ほんの小さな朝の幸せ
全代会活動報告

Campus No.206 2015/04/01

特集：全学学類・専門学群代表者会議概説

2015年度へ躍進図る／全代会活動報告



Campus No.205 2014/12/26

特集：教室も単位もない講義

大学を動かす場／全代会活動報告

バックナンバーは全代会室横（1学食堂内）のボックスで配布しています。
ウェブ版『Campus』公開中 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/wiki/?Campus>

STAFF

編集人	小松崎麻緒
発行人	宮内優衣
表紙デザイン案	鈴木苑子
編集委員	青野綾介 山本創 石田理紗 吉田文香 石原琴子 小野真実 河出麻里奈 小島七海 古林慧一 小松崎麻緒 鈴木苑子 鈴見祐悟 平田瑞季 宮内優衣 宮下寛太 森下夢子
発行	全学学類・専門学群代表者会議 広報委員会  http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/ zdk@stb.tsukuba.ac.jp

広報委員会では随時編集委員を募集しています。興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。

2015年度の本会議で採決された議案

第五回	・平成27年度学園祭実行計画書に関する要請	承認51、保留0、否認0で可決
第六回	・平成27年度学園祭実行計画書に関する要請 ・新入生歓迎特別委員会設立の要望 ・冬季休業期間終了日変更の要望	承認38、保留0、否認0で可決 承認39、保留0、否認0で可決 承認38、保留0、否認1で可決
第七回	・平成28年度学園祭開催に関する要請	承認40、保留0、否認0で可決
第八回	・学園祭実行計画書追加提出分に関する要請	承認49、保留0、否認0で可決
第九回	・平成28年度監査役選出について	承認35、保留3、否認6で保留否認
第十回	・平成28年度監査役選出について	承認38、保留2、否認0で可決
第十一回	・平成27年度筑波大学学園祭総括報告書承認の報告	承認45、保留0、否認0で可決
第十二回	・学園祭準備委員会発足の報告 ・学園祭実行委員会委員長・副委員長の任命について ・学園祭学生分担金の額及び納入方法について ・安全対策推進委員会に関する申し合わせについて	承認38、保留0、否認0で可決 承認38、保留0、否認0で可決 承認38、保留0、否認0で可決 承認28、保留7、否認3で保留否認

学園祭実行委員会から

第42回雙峰祭に向けて

こんにちは。学園祭実行委員会（学実委）です。学実委は総務局、財務局、広報宣伝局、渉外局、推進局、総合計画局、スケージ管理、情報システム局、本部企画局の九つの局と、全体をまとめる委員長団で構成されており、それぞれが雙峰祭開催に向けて活動しております。第41回雙峰祭でも、本学の広い敷地を生かしたさまざまな企画を行い、おかげさまで約3万人の方々に来場していただくことができました。

さて、年度も改まり、2016年度の雙峰祭に向けて動き出しました。今まで以上に、来場者の皆さんに本学の魅力をお届けできるよう、努力していきます。2016年度も学実委と雙峰祭を何卒よろしく願っています。

(文責：2015年度学園祭実行委員会)



第41回雙峰祭マスコットキャラクター『キリコちゃん』



第41回雙峰祭の様子

私たちと共に雙峰祭を創り上げてくれる新入生を募集中です！詳しくは、学園祭実行委員会室（1C204）に来ていただくか、公式HP（<http://www.schhosai.tsukuba.ac.jp/>）にアクセス！